

科目	基礎作業学	担当	大浦智子	履修学年	2年
				開講期間	前期
時間数:90分×1時限×15回(週1回)		履修区分:必修		単位数	1単位
<b>【授業目標・到達目標】</b>					
<p>作業活動の構造や特徴を科学的に捉える作業分析の方法、手段について学ぶ。作業療法における作業とはなにか、心身機能や活動にどのように影響するかについて学ぶことにより、作業療法の治療原理の基本を理解する。また、作業分析に必要な手段でもあり目的でもある作業について学び、さらに作業分析方法、統合化方法などを学ぶことによって、作業分析が実践できるようになることを目標とする。</p>					
<b>【履修注意】</b>					
<p>作業療法の基礎的理解の講義のため、作業療法を追求する探究心を養ってほしい。</p>					
<b>【評価方法】</b>					
<p>中間試験、期末試験、小テスト、出席状況、授業態度、課題レポートなどで総合的に評価する。</p>					
<b>【試験について】</b>					
<p>小テスト、中間試験、期末試験</p> <p><b>再試験対象者の条件:</b> <u>総合評価 60点未満</u></p>					
<b>【予習 復習】</b>					
<p>項目内容が変わるごとに、各自復習をしてまとめておくこと。</p>					
<b>【教科書】</b>					
<p>書籍名: 標準基礎作業学 編集:小林夏子, 福田恵美子 出版社:医学書院</p>					
<b>【参考書】</b>					
<p>書籍名: 作業療法全書 2巻改訂第3版 基礎作業学 著(編)者:澤田雄二編 出版社:協同医書出版社</p> <p>書籍名:「作業」って何だろう 著者:吉川ひろみ 出版社:医歯薬出版株式会社</p>					
<b>【講義計画・内容】</b>					
回数	項目	内容			
1	生活のなかの「作業」	作業の種類、作業の階層			
2	「作業」の主観的意味	作業の種類と作業バランス			
3	「作業」の文脈	空間的・時間的・社会的・文化的側面			
4	作業と生活機能	国際生活機能分類・生活機能・背景因子			
5	基礎作業学と作業療法①	作業療法と作業			
6	基礎作業学と作業療法②	作業の適用と分類・作業分析			
7	作業分析の理論と方法①	身体運動技能と作業分析			
8	前半のまとめ	前半のまとめと復習・確認			
9	作業分析の理論と方法②	心理社会的技能と作業分析(精神分析理論・発達理論)			
10	作業分析の理論と方法③	心理社会的技能と作業分析(行動理論・人間学的理論・集団療法)			
11	理論体系例としての作業分析	感覚統合・理論			
12	理論体系例としての作業分析	作業遂行分析・理論			
13	作業分析理論①	作業遂行の包括的理解・カナダ作業遂行モデル			
14	作業分析理論②	作業遂行の包括的理解・人間作業モデル			
15	作業の治療的応用	作業を活用した実践とまとめ			
16	期末試験	15回の復習・確認・総まとめ			